

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 健康栄養学科

名 前 大出 理香

作成日 2023年9月28日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

担当科目は、専門基礎分野の食事計画実習・基礎分野のコミュニケーション実習Ⅰ (RD1年必修)、専門分野の栄養教育論Ⅰ・基礎分野の管理栄養士基礎演習Ⅲ・コミュニケーション実習Ⅱ (RD2年必修)、専門分野の栄養教育論Ⅱ・栄養教育実習Ⅰ・栄養教育実習Ⅱ (RD3年必修)、専門分野の管理栄養士総合演習・卒業研究 (RD4年必修)・臨地実習 (RD2、3、4年必修) である。

教育活動は、就職対策ワーキンググループ、学生委員会に所属し、3年生の担任を担当している。臨地実習は、事業所および保健所を担当している。

本学の「人々の真の幸福と健康を支援する」という教育理念のもと、対象者に寄り添った栄養の指導ができる管理栄養士の育成をすることが責務と考える。

2. 理念 (教育に対する考え方)

「人間の総合的理解」をもとに、人間・生活と「栄養・食」とのつながりを理解し、健康や医療に係る様々な場面において、「人々の幸福と健康を支援する」ことのできる管理栄養士を育成することである。管理栄養士は、すべての人びとの「自己実現をめざし、健やかによりよく生きる」ために「栄養の指導」を行う専門職である。栄養教育論の学びを通して、栄養だけでなく、運動や休養を含め、自分自身の健康への意識を高められるよう学生と共に学んでいくことを目指している。

3. 方法 (教育方法において大切にしていること)

「栄養教育」は『社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、他者への思いやり』を具現化するためにあるような実践的な学問領域である。健康支援のために関わる理論と実践の結びつきを常に意識できるような教育を目指している。

講義科目では、プリントを配布し、教科書を用いながらスライドによる説明を行い、学修をすすめている。授業中に練習問題を解き、解答・解説することで理解を深めるよう授業に取り組んでいる。

実習では、個人ワーク、ロールプレイおよびグループディスカッションによるアクティブラーニングを行い、個人の栄養教育、集団の栄養教育について理解できるよう実践を意識した授業を行っている。

4. 成果 (学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について)

講義に関しては、試験において基礎的な知識を問う選択問題により、理解力の確認を行っている。

実習では課題として出されるレポート、作成した資料や献立などの提出物により理解力を、プレゼンテーションやロールプレイによりコミュニケーション力の評価を行っている。

栄養教育実習Ⅰの個人の栄養教育では、ロールプレイに時間を割き、糖尿病患者と管理栄養士役を何度も演じたことで、学生から「栄養指導の練習ができた」、「栄養指導への理解が深まった」という意見が多く得られた。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

今後の短期目標として、栄養教育論Ⅰの授業アンケートの「この科目の内容について理解が深まりましたか」のポイントを昨年度よりも上げることとする。

長期目標としては、栄養教育が他の科目と関連した知識や技術が必要であることを理解させる。その上で考える力や他の知識と結びつける力、応用できる力を習得させ、卒業後に管理栄養士として就職した際、栄養指導に必要な知識と基本的な技術を習得させる。

【添付資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート